

イングリッシュクローゼットの整理の仕方：

学生のための会話フローチャート

By Kathi Emori

はじめに

日本の学生は小学校から、時にはそれ以前から英語に触れている。本格的な学習は中学校で始まり、高校でも続けられる。多くの大学の講師が直面する問題がある。新学期の最初の授業でこのようなことを言ったときである。

“Ok, get to know the person next to you. Ask them 5 questions. Go.”

[さあ、隣の人のことを知りましょう。5つ質問をしてください。どうぞ。]

学生はきょとんとして先生を見、隣の学生を見る。手ごわい始まりだ。このハードルを越えるのはさらに難しい。

この論文では、私が3年間いくつかの大学のあらゆるレベルのイングリッシュコミュニケーションの授業で用いてきた、体系的なフローチャートを紹介したい。初回の授業の教室に入り、2分も英語で話すことができなかつたのが、このフローチャートで学生は90分間ずっと会話することができるのである。学生とともに私も驚いたが、先生評価のアンケートによると、ほとんどの学生が、私が講座の最後に感じたように、満足してコースを終えたようである。私にフローチャートを作成させたような問題を検討した過程を示そうと思う。それが私の指導方法にどのように効果があったかという私の見解に他の先生方にも共感してもらい、それぞれのクラスや状況になじむアイデアを使ってもらえたらと思う。これが他の先生のクラスで学生が90分会話を続ける確実な方法だとは思わないが、むしろ、90分の会話に導く可能性のある一つの道筋だと思っている。私には役にたったので、何らかの形で他の先生の役にもたつものであることを願う。

問題への反応

考えられる原因をブレインストーミングする

大学の講師になって最初の週に難問題に直面してから、どうしたら学生をコミュニケーション街道に乗せることができるかを考え始め、リストを作った。

- a. 学生はもともとこの言語を知っている。例えば、シンプルで簡単な中学の教科書にある質問である。学生は基礎はあるが、それをどうやって使うのかを知らない。きっと会話の中で実際に使う機会が無かつたのだろう。
- b. 学生の頭の中には高校や大学受験準備で訓練されたかなり難しい文法がある。英訳や和訳、単語の練習を学生はたくさんやってきている。しかし、それをどのように使ったらよいかわからない。おそらく実際にそれを使う機会が無かつたのだろう。
- c. 学生は今まで接し学んできた言語を頭の中の特定のポケットから口元にスムーズに持ってきて構成する方法を知らないようである。明らかにそれを実際に使う機会が無かつたのである。
- d. 学生の脳はクローゼット*のようである。そして現在は単語、文法単元、訳すためのテクニックが、ハンガーや引き出しの無い中にめちゃくちゃに積み上げられ、簡単に取り出すことができない。白いシャツや清潔な靴下が、必要なときにすぐみつけれられない。なぜなら、ある程度よく着れば、クローゼットの手前側の出しやすいところにそれを置くからである。言語においてはより多く使い、どのように使われるかを学ばば、すばやく簡単に出来るように適当な引き出しにそれを入れることを学ぶのである。
- e. でたらめに詰められた学生のクローゼットを整然とまとめるにはどうすればいいだろうか。すでに実際に無計画に学生の頭に言語がある中で、単に言語を使うということを学ばせることができるだろうか。

- f. おそらく母語話者がどのように言語を使うかを考察し、なんとかして学生が使えるようにする必要があるのである。学生が実際に接したことのないが必要である母語話者の会話は何が違うのだろうか。

録音とトランスクリプト

学校以外で友人と会うときボイスレコーダーを持ち歩くようになった。学生の語用の知識に欠けていると思われる、母語話者の会話で何がおきているのかを見たかったのである。(重要:録音はごく近い友人にのみ行い、後に事前に録音することを伝えなかった理由を説明した。友人が不快に思ったときは消去することを伝えた。誰も気にせず、ほとんどの人は後に私が書きだしたトランスクリプトについて親切に話してくれた。)

下記は別の話題にあるペースで移っていき、かつ短く簡潔なので特に適していた対話である。他の対話はとても長く、きわめて複雑だった。それらは下記の対話で何が起きているかを見るのに、補助してくれ、教室で学生に紹介するフローチャートを組織するのに役立った。

フローチャートの発展

会話の記録を何度も検討し、中学や高校の授業では何が欠けているのかを探した。(全トランスクリプトは付録Aを参照)

初めに話題間の移動がしっかり見て取ることができ、パズルを解く鍵として強く心に残った。そこで話題転換と転換のマーカの位置に基づいて会話を分割した。会話は3つの主要なパートにわけられた。

1. 何らかの挨拶
2. 質問/話題
3. 何らかの別れの挨拶

違う色で印をつけ、きっかけをさらに目立たせた。学生に何が欠けているのかがわかるのにそんなに時間はかからなかった。

- 学生はディスコース・マーカをどのように使うかの実用的な知識が無いのだろう。
- 学生はパート1からパート3までどのように円滑に進めるかを知らないのだろう。
- 学生はどのように話題を転換し、会話の中で順調に移動していくかを知らないのだろう。
- 学生は話題を変えたり、話題を広げたり、以前に話した他の事項に言及することによってより長い期間会話を持たせる方法を知らないのではないか。

これらのマーカを選び出した。 “by the way”; “so”; “well”; “anyways”; “That reminds me...”; “As I was saying...”; “Like I said before...”; “I have to go...”等

中学・高校の教科書を見てから、大学の母語話者によるイングリッシュコミュニケーションのクラスでよく使われている教科書を見て、実践的なディスコース・マーカの用法に焦点をあてた対話を探した。まさにマーカに焦点をあてているものはあまり無かったが、(“by the way”のような)いくつかのマーカは根本的な説明や特定の練習をなしにミニ対話に出てきた。

実践的に重要な(a.)3つの主要なパート(b.)ディスコース・マーカという二つの概念を学生に理解させるのはおそらく、最大の障害であろうし、授業はかなり混乱するであろう。これらを紹介するには簡素なものから始め、学生が相手と話しながら視覚的にイメージできる組織化されたシステムにするように各段階で多くの練習時間を割きながら、学生がとらえるに従って、回り回っていくべきである。

Wills (1987 & 1992)によって極めて珍しく成し遂げるのが難しいと言明されてはいるが、「インナー・インディペンデント」レベルでの対話にできる限り焦点をあてて、学生のゴールをスピーキングに定めた。この対話のスタイルは実際になんらかの概念でそれを描き出すと考えられる。私のインプットは、学生が会話を進めていく上での必要な言い回しを補助するのみにとどまることになる。以下のような言い回しを教える必要があると思う。

“Oh, sorry, I have to go because Kathi just signaled that we should sit back down. Let’s talk more later. [あの、ごめん。もう行かなくちゃ。先生が座るように合図したから。あとでまた話そう。]”

“Um, we’ve finished. So, let’s change the topic until Kathi signals to stop, what are you going to do this weekend? [うーん。終わったね。じゃあ、先生が終わりの合図をするまで、話題を変えよう。今週末、何をするの?]”

できる限り現実的なシチュエーションを維持することに加えて、学生の早急に必要となる言葉が最大の効果を挙げている事確かめなくてはならなかった。ただ鍵に頼るだけよりも、お互いの発話を明確にするためにお互いに聞くようにした。言語の供給源としての役割が先生としての役割より大切になっていった。私が事前に推測するのではなく、話しているときにどの言葉が足りなくて必要とされているのかを学生に発見させ、私に質問をさせ、学生自身が会話の中で自主性を持てるとよいと思った。自信を持たせ、学生の話す時間をより長くできると思ったので、インプットよりもアウトプットに重点をおきたかった。

教えるペースと段階

ペースの設定

下記にあるように、学生は一度に一段階フローチャートを移動していく。これを用いた3年間に基づいて、教えるペースについて、選抜したいいくつかのパターンをお勧めしたい。

大学1年生	反復練習を用い、1授業1段階。最後の授業までに、学生は相手を変えながら全90分間、英語で話し続ける。
2年～3年生	多くの練習を用い、1授業2～3段階。学期の中頃までに、学生は90分話すことができる。
4年生	トランスクリプトと空のフローチャートを学生に渡し、考えさせる。(時に上手くいくが、時に上手くいかない。)

各クラス違いがあり、それは学生が以前の英語の授業でどれだけのフリートークの時間をしなくてはならなかったかにもよる。あまりにも早くチャートの全体を紹介することは学生を圧倒することがあり、良くなるよりもむしろ被害を与えることがわかった。

フローチャートを教える

学生にどのようにフローチャートを紹介するのかを下記に記した。視覚的にチャートの1段階を一度に紹介する。初めに完全なチャートを見せることは決してなく、たいていは黒板やホワイトボードを使い、一度に一つの丸か四角を描く。この論文のためにチャートをデジタル化したのが、学生は各回、黒板に手書きされた一つの丸か四角を見る。この方法により学生は段階を学習しやすく、十分な時間をかけて、そこで何が起きているのか確実に理解するために一つの丸や四角に取り組むことができる。

Pre-Step

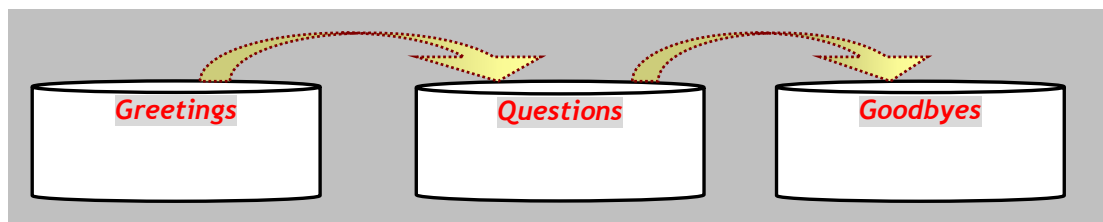
会話のフローチャートを紹介する前に、前の会話に引き続き質問をすることや他の学生の名前を覚えるようにすることに集中するべきである。最初の授業で学生がたいてい記入する「インタビュー・アンケート」がたいてい機能する。(付録Cを参照)

Step #1

学生に母語話者の会話を録音したトランスクリプトを渡す。それはいくつか分割されていて、学生は録音を聞く前に、時系列に並び替える。(付録Bを参照)

Step #2

学生はそれぞれの部分の機能を分類する。例: 挨拶、紹介、勧誘など。それからどの言葉が各機能の合図を出しているかをノートに取る。例えば、“Shall we...”があるのでこれは勧誘だとわかる。



Step #3

いろいろな「挨拶」「質問の題材」「別れの挨拶」を学生がブレインストーミングする。鍵は挨拶や別れの挨拶が真実であることだ。例えば、学生は次の日に実際に会うのでなければ“see you tomorrow”を練習すべきではないが、もう一度会うなら言う。

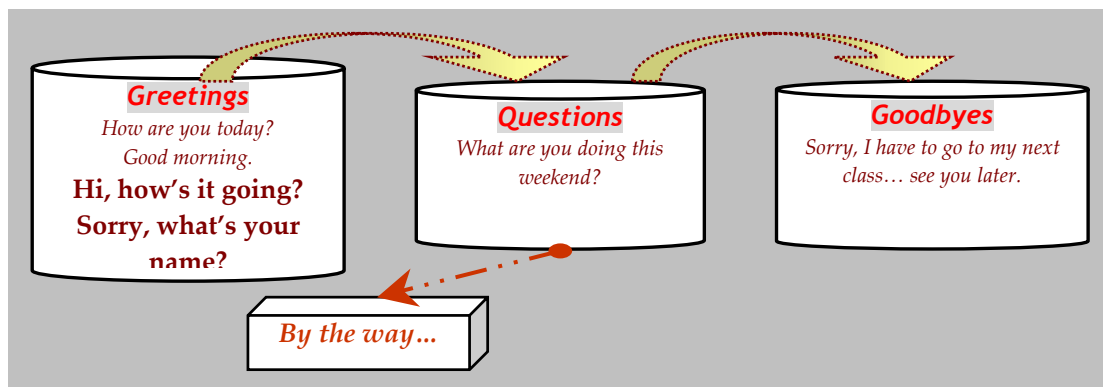


Step #4

学生は立ち上がり他の学生に挨拶し、知らなければ名前を聞いて、別れの挨拶をする。別のもう二人の学生とこれを繰り返す。学生が席に戻ったら、隣の人に“Who did you talk to, and what did they say? [誰と話した? 何て言ってた?]”と聞く。お互いに話してきた3人について話す。

Step #5

最初のディスコース・マーカー“by the way”が話題を変えるためにどのように使われるかを示す。どのように間違えて使われるか、また、使われすぎてしまうかを示す。隣の学生と2、3回練習し、先生に正しく使えているか確認してもらう。



Step #6

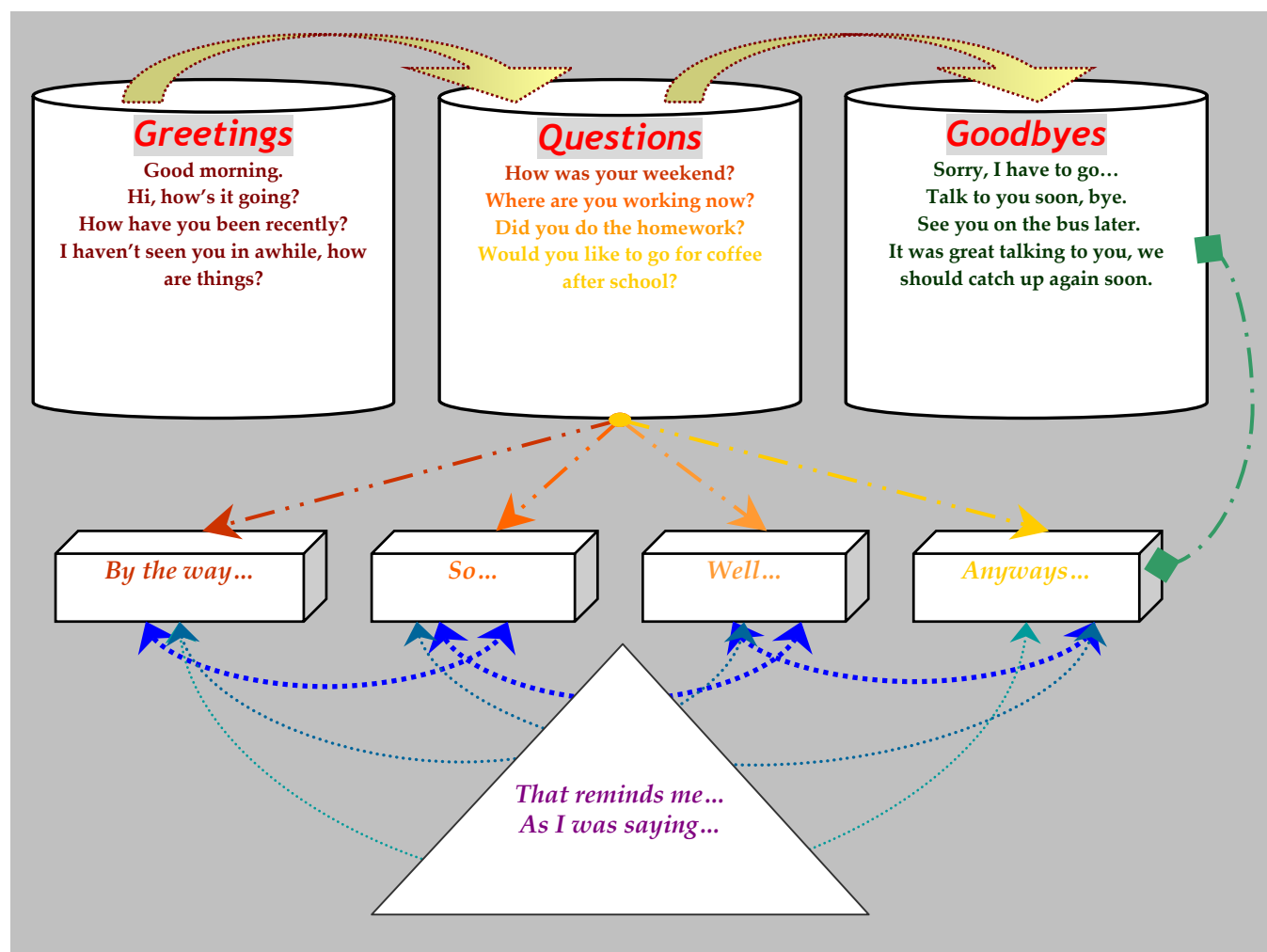
学生はまだ話したことのない人を探し、挨拶をし、自身で選んだ話題に移動し、“by the way”を使ってみながら、会話を続け、十分だと思ったら、別れの挨拶をする。席に戻り、隣の学生に“Who did you talk to, and what did they say? [誰と話した? 何て言ってた?]”と聞き、“How did you use ‘by the way’? [どうやってby the way’を使った?]”と聞く。

Step #7

進むにつれて、新しいマーカーを紹介する。“so...”, “well...”, “anyways...”のように話題を変えたり、会話を終わりに向かわせたりするものである。他の役立つマーカーは“As I was saying (last class)...”, “That reminds me...”, “Remember when I told you about ..., well now...”などがある。

Step #8

ここでチャートは完成される。重要な点はこのモデルは一つの枠組みに過ぎないことである。学生は快適に使えるようになれば、自由に探求し、操ることができる。このモデルは学期の課程すべてのレクシンプランとして用いることもできるし、コースの一部として用いることもできるし、一連のウォーミングアップとして使うこともできる。



問題解決とよくある質問

すでに記したように、各クラスや各先生はスタイルや手法、言語学習の成果において、独特である。私の経験や他の先生方のご意見からいくつかの問題が浮かび上がった。

- a. とても内気な学生をどうしたらよいか。
 - やるべきことの枠組みがあれば、励ますことが役立つと思う。学生は心地よく感じ、自信を持ち始める。
- b. 学生に”anyways”をどのように理解させたらよいか。私は実際には”anyways”を使わないのだが。
 - 話していることから別れの挨拶の準備に導くのに私はよく用いる。英国人の先生方の多くがこの質問をした。これは不動のものではないので、教える先生自身がどのように話すかが重要である。他の人がどのように話すかではなくて、先生自身がどう話すかを教えることができるからだ。
- c. どのようにしてこのチャートを越えさせたらよいか。学生がチャートにとらわれてしまって、その先に進んでいけないようだ。

- 学生がこのチャートが確定したものでないことを理解しているか確認しなければならない。このチャートは発展や英語での討論への足がかりである。言語学や言語がどのように機能するかを学生に話す。それらは学生に教えてはいけない秘密ではないからだ。私は認知過程や脳がどのように情報を蓄積するかを学生に話すことがよいと強く信じている。学生は簡単な用語で概念を理解し、英語でさえも教えられることができる。上記のクローゼットの例は、学生にとって、とてもよい類推である。

d. これは少し形式的で、必ずしも的確ではない。

- その通りだ。これは形式的である。だから、学生に通用する。うまくいけば、この時点で学生はクローゼットを整理するための引き出しやハンガーを持っている。それから学生が自身に機能するようにもう一度クローゼットを整理するかはその学生次第である。必要に応じて更なる棚やたすの買う方法を学生が知っているといい。このチャートが役立つといいのだが、それは学生の自立した学習過程の一部である。

e. 学生が”by the way”を使いすぎ、使い方が適切でない。

- この問題は少し難しい。私自身は一人の相手に対し、一度だけ使っていていいと学生に指示する。それから、学生に山ほど例を与える。学生が始めてこの手段を用いるとき、一人の相手と何度も何度もそれを使わせ、私が教室をまわり、「はい、よくできました。」や「ちょっと変ですね。もう一度。」などと言う。やがて学期の終わりには学生はきちんと使えるようになる。

おわりに

繰り返しになるが、経験上、このフローチャートは学生の話す為の自信を強めるようだ。さらに、学生は教室に望まれる実際の談話に近いものに入り込んでいくようだ。学生は会話に引き込まれクラスにいるのを忘れて見えるし、学生は実際に予定を組み同級生と組んだ計画を手帳に書き込んだりしていた。しかも英語で話しているのである。学生が私がせかすことなくして、本物の計画を立て、現実のコミュニケーションの時を成し遂げ、次の週に教室に戻ってきて他の学生に何をしたかを話すことは、大きな一歩であり、正しい方向である。

この自信と快適に話題を行ったり来たりできる能力や、先生とに加えて学生間の信頼は、より難しい題材や討論の授業に学生が進む際に役立っている。学生が上に進む準備が整っていることに先生が気づかないと、少し余分が出てくる。教えるペースを判断し調整するのは先生次第である。改善するのに調整方法やアイデアがあったら是非、私に連絡をしてほしい。これは進行中の研究であり、3年間使ってきたが、各学期何かしら新しいことが浮かびあがり、少し調整する。私はこれを「パイロットリング・ステージ」と呼んでいる。皆様のご意見ご見解をお待ちしている。

参考文献

Willis, J. 1987 *Inner & Outer: Spoken Discourse in the Language Classroom*. In Coulthard, M 1987 pp. 1-19
Willis, J. 1992 *Inner & Outer: Spoken Discourse in the Language Classroom*. In Coulthard, M 1992 pp. 162-182

謝辞

会話やトランスクリプトを手伝ってくれたNikola, Gary, Mikeに感謝の意を述べたい。進行中のパイロット版のフローチャートに耐えより通用するものにするために意見や見解をくれた学生たちにも感謝の意を述べたい。最後にこのクローゼット類推は、基礎の言語学と認知科学の用語でこの概念を学生に説明できるように変更を加えて話した、少し関連のない題材についてのDavid Barker先生のブレインストーミングのセッションにおいて初めて生じたものである。

付録 A

トランスクリプト 色の違いは話題の転換をしめしている

K: Hi, sorry I'm late. Have you been... um.. waiting long?
N: No.. not a.. maybe 5 minutes?
K: [.. sorry]
N: [No worries..]
K: [how was school?]
N: Yeah, it was good. I had three great classes in the morning, but uh.. the afternoon dragged by. Yours?
K: Not bad, just busy. Lots of papers to correct for the final exam. Hey, what are you drinking?
N: I got a frappuccino, I felt like being bad. (he he)
K: I'm going to go order, it looks busy – might take a minute.
N: [ok]
K: Hey, by the way, did I tell you I ordered a new cappuccino machine?
N: [no!]
K: Yeah. I'm so excited, it's being shipped from the States, and so cheap!
N: How much did you get it for? I know you checked tons around here.
K: I know, about ... um... I think with shipping it'll be.. just about 200 dollars, or ni-man yen or so... yay?
N: [cheap, wow]
K: And it has a timer – I've been looking for that for ages, but it got it.
N: Cool. So... when am I coming over for a cappuccino and cake? Hmmm...?
K: Yeah, ok. You are the first on the list to taste test. You said before, but I forgot, you're moving up to Tokyo when...?
N: March 28th I think.
K: [oh, ok]
N: Plenty of time to try it out. I went up and got an apartment last weekend
K: [where?]
N: already with Hiro. Fuchu. Far from the city but cheap and pretty big.
K: Nice. Now you can relax about it. I know you were worried, show me pictures if you have any when you come over. Which brings me back to, what are you doing next Thursday night-- I don't have school on Friday, want to come for dinner?
N: Yeah, but I can't get there til 7, is that ok?
K: No problem – gives me more time to get ready. Any requests?
N: No – whatever.
K: My phone, sorry... (hello? Honto? Hai... hai... wakata, sugu kaeru. Un.. jaa ne.)
K: Sorry, Nik, I have to go – Sami needs to go to the vet.
N: [oh no, she ok?]
K: Something's wrong with her stomach.
N: [again?]
K: She got sick 4 times during the night – gross. And I had to clean it up.
N: [was it food?]
K: I don't think so, she ate a plastic thingy, that might be it. Anyways, I'll see you Thursday? Mail me!
N: Yeah, hope she's better. Wait, can I bring anything?
K: [thanks... nope!]
N: See you on Thursday.
K: Sorry... again – as always with me, right? Bye!

付録 B

ディスコース・マーカーで分割し、順番を変えてあるトランスクリプトの用紙

Name: _____ Class: _____ No# _____

I. **Decide with your partner or group the order of this conversation. [この会話の順番をパートナーやグループと話なさい。]**

Put 1st, 2nd, 3rd, 4th and 5th in the small boxes. [小さい四角に1st, 2nd, 3rd, 4th, 5thを書き入れなさい。]

II. Practice reading the conversation in your group. [グループで会話を読んで練習しなさい]

III. Circle the words that signal a change in topic. [話題転換の合図の役割をしている語に丸をつきなさい。]

[]

N: So... when am I coming over for a cappuccino and cake? Hmmm....?
K: Yeah, ok. You are the first on the list to taste test.
K: You said before, but I forgot, you're moving up to Tokyo when...?
N: March 28th I think.
K: [oh, ok]
N: Plenty of time to try it out. I went up and got an apartment last weekend
K: [where?]
N: already with Hiro. Fuchu. Far from the city but cheap and pretty big.
K: Nice. Now you can relax about it. I know you were worried, show me pictures if you have any when you come over.

[]

K: My phone, sorry... (hello? Honto? Hai... hai... wakata, sugu kaeru. Un.. jaa ne.)
K: Sorry, Nik, I have to go – Sami needs to go to the vet.
N: [oh no, she ok?]
K: Something's wrong with her stomach.
N: [again?]
K: She got sick 4 times during the night – gross. And I had to clean it up.
N: [was it food?]
K: I don't think so, she ate a plastic thingy, that might be it. Anyways, I'll see you Thursday? Mail me!
N: Yeah, hope she's better. Wait, can I bring anything?
K: [thanks... nope!]
N: See you on Thursday.
K: Sorry... again – as always with me, right? Bye!

[]

K: Hey, by the way, did I tell you I ordered a new cappuccino machine?
N: [no!]
K: Yeah. I'm so excited, it's being shipped from the States, and so cheap!
N: How much did you get it for? I know you checked tons around here.
K: I know, about ... um... I think with shipping it'll be.. just about 200 dollars, or ni-man yen or so... yay?
N: [cheap, wow]
K: And it has a timer – I've been looking for that for ages, but it got it.
N: Cool.

[]

K: Hi, sorry I'm late. Have you been... um.. waiting long?
N: No.. not a.. maybe 5 minutes?
K: [.. sorry]
N: [No worries..]
K: [how was school?]
N: Yeah, it was good. I had three great classes in the morning, but uh.. the afternoon dragged by. Yours?
K: Not bad, just busy. Lots of papers to correct for the final exam. Hey, what are you drinking?
N: I got a frappuccino, I felt like being bad. (he he)
K: I'm going to go order, it looks busy – might take a minute.
N: [ok]

[]

K: Which brings me back to, what are you doing next Thursday night-- I don't have school on Friday, want to come for dinner?
N: Yeah, but I can't get there til 7, is that ok?
K: No problem – gives me more time to get ready. Any requests?
N: No – whatever.

付録 C

初回のクラスの自己紹介インタビュー・アンケート用紙

Name: _____ Class: _____ No# _____

IV. Fill in as many words as you can by yourself. Compare with a friend. Listen for the correct answers. [できるだけ多く埋めなさい。友達と比べなさい。正しい答えを聞きなさい。]

V. Change papers with a friend and ask these questions. Write a short answer. [友達と紙を交換して3つの質問をしなさい。簡潔に答えを書きなさい。]

1. Where _____ you live? _____
2. When _____ your birthday? _____
3. _____ your favorite color? _____
4. Who is _____ favorite musician? _____
5. What _____ movie? _____
6. What is _____ you dislike? _____
7. _____ your hero? _____
8. How _____ to school? _____
9. Which kind of fruit _____? _____
10. What _____ in your free time? _____
11. Where do _____ want _____ travel? _____
12. _____ is _____ goal _____ year? _____
13. What is your goal for _____ far _____? _____
14. What _____ think _____ English? _____

VI. Choose 3 questions above and write a follow up question. Ask your friend and write a short answer. [上記から3つの質問を選び、それに引き続く質問を書きなさい。友達に質問して、答えを簡潔に書きなさい。]

For example: #8. by train = How long does it take? 90 minutes

- () 15. _____
- () 16. _____
- () 17. _____